

芸術祭が始まる

東京藝術大学美術学部絵画科准教授
アーツ前橋チーフキュレーター

みやもと
宮本

たけのり
武典

⑬「桐生と前橋、2つの芸術祭」

前橋でも芸術祭のプログラムを手がけています。「第一回前橋国際芸術祭2026」は「桐生ART」より一足はやく、9月19日(土)に開幕しました。私にとって桐生は生活拠点ですが、前橋はキュレーターとしての専門性が問われる仕事の場。2つの芸術祭は規模こそ異なりますが、アーティストを招き、一緒に地域の歴史・文化・産業・景観をリサーチし、現地制作に伴走する私のスタイルに変わりはありません。

しかし、前橋は81年前の空爆で市街地の80パーセントを焼失しており、桐生と違って「歴史的な景観や建造物を活かす」コンセプトは成立しません。また、前橋も戦前は「いとへん」の街で、広瀬川沿いに製糸工場や生糸の保管庫が密集していたのですが、それも産業構造ごと消え去り、行政機関や商業施設を中心とした街区に再建されました。ですから、前橋は地域密着型ではなく、世界に向けて「街びらき」をする国際芸術祭として、海外からもアーティストを招待します。彼らは地域固有のもののづくりに強い関心を示しますが、現在の前橋でそのニーズに応えるのは難しい。そこで結局、桐生の皆さんに教えを乞い、素材提供や工房視察に協力していた

だくことになるのです(感謝)。海外のアーティストを桐生の織物工場に案内するとき、地域共同体の一人として誇らしい気持ちになります。熱心に見学する彼らによると、欧州はファッションの流行発信地ですが、布地の産地はほとんどアジア圏で、製造過程に触れることはほぼ不可能だといえます。桐生に今も根付くもののづくりの尊さを、前橋の芸術祭であらためて気付かされていくのです。

「前橋国際芸術祭2026」は中心市街地に点在する19の会場で開催中。70組のアーティストの作品に編み込まれた「桐生」を探しに、ぜひ前橋にお越しください。



▲ボストンから招待した視覚障害を持つアーティスト、S.プロスキーさんは、桐生の織物工場から譲り受けた残布で、指先の触覚を頼りにコラージュを制作した。

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで(申し込み時)の桐生っ子を募集します。

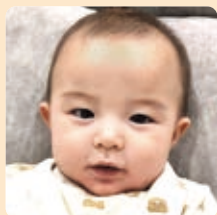
■右の二次元コードから電子申請でお申し込みください。



☎魅力発信課(☎46 - 1049)



たむら りあ
田村 莉愛 ちゃん
4歳2か月



おりも みと
折茂 心翔 ちゃん
9か月



たむら じん
田村 迅 ちゃん
3歳3か月



たむら てん
田村 天 ちゃん
9か月

図書館のおはなし会

▶みんなあつまれあおぞらおはなし会

芝生の上でピクニック気分のおはなし会です。

期①10月10日(土)②10月15日(木)

時①午前11時～11時30分②午前10時30分～11時

場新川公園

※雨天時は図書館1階絵本コーナー

☎図書館(☎47 - 4341)

▶えほんはともだち図書館おはなし会

絵本や紙芝居などの読み聞かせを行います。

期10月10日(土)

時午前11時～11時30分

場新里図書館お話の部屋

☎新里図書館(☎74 - 8080)



▲市HP



▲ふれあいメール



▲Instagram



▲X(エックス)



▲フェイスブック



▲ユーチューブ